

一 清水純一先生の御逝去

京都大学文学部名誉教授、清水純一先生は、昭和六十三年十一月一日、京都市左京区の川越病院において、心不全のため逝去された。享年六十四歳。

先生は福井県の御出身。昭和二十四年京都大学文学部哲学科を卒業、広島大学を経て、同四十三年、京都大学文学部イタリア語学イタリア文学講座に御着任、同六十三年停年により退官された。この間、昭和五十四年にはイタリア政府よりカペリエーレ有功勲章が贈られた。

先生のイタリア・ルネサンス人文主義を中心とする数多くの独創的先駆的な御研究の成果のうちには、学位論文となった『ジョルダーノ・ブルーノの研究』（昭和四十五年、創文社）等がある。先生は該博な知識と卓抜な洞察に裏付けられた論文「ブルーノの死」（第三十九巻、第九、十号、昭和三十九年）を『哲学研究』に寄せられる等、本哲学会の良き伝統の維持発展に寄与された。

ここに、本哲学会への御功勞を銘記し、また学界教育界への卓越した寄与を讃えつつ、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

平成二年三月

京都哲学会

二 会員の御逝去について

左記の会員の方がお亡くなりになっておられる。本学会へ久しい御厚誼を偲び、謹んで御冥福と御遺族の御平安とをお祈り申し上げます。（括弧内はお亡くなりの日、最終御勤務先、御遺族の御住所または御墓所。）

田 辺 勇

（右は判明したもののみ。敬称略。会員の消息についてお気づきの方は、京都哲学会宛おしらせ下さい。）

三 京都哲学会委員の異動

京都哲学会現任委員のうち、昭和六十三年三月末日をもって、服部正明氏、梶山雄一氏（以上両氏とも停年退官のため）が退任された。また、同年四月一日付をもって、内山俊彦氏（中国哲学史講座教授着任のため）、内山勝利氏（西洋古代哲学史講座助教授着任のため）の両氏が新たに委員に加わられた。

四 外国哲学者来訪講演会記事

一、クラウス・ヘルト博士（ヴッパータール大学教授）

昭和六十二年九月二十六日 於文学部

「数としての時間——古代ギリシアの時間理解に見られる現象学的特性——」

一、ゲルハルト・フンケ博士（マインツ大学教授・カント協会

会長)

昭和六十二年十二月一日 於京大倉館

「意欲の僕としての知性」

五 京都哲学会公開講演会記事

昭和六十二年年度の京都哲学会公開講演会は十一月三日(火)

午後一時半から、京都大学文学部第七講義室において、左記の如く行われた。

- 一、身体と実存 京都女子大学教授 田中 英三氏
- 一、チベット人の伝える経量部の思想 京都大学助教授 御牧 克己氏

講演会は、長尾雅人文学部名誉教授を始め、数多くの会員の方々の出席を得、盛会であった。また、終了後、楽友会館において、田中、御牧両氏を囲んで、約三十名の会員が晚餐を共にしつつ、討論、歓談のひとときをすごした。

六 昭和六十二年度京都哲学会収支決算について

前年度繰越金 三、四七四、八九一円

本年度収入 八九〇、六〇六円

本年度支出 一、五七五、一六六円

残額総計 二、七九〇、三三二円

なお、右については、本学会の高田三郎、西川富雄両先生(本学会会計監査)から、昭和六十三年四月十四日付で、監査と御承認を頂いております。

七 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

—昭和六十一年三月—

哲 学

北島 健太郎 カントによる純粹悟性の超越論的演繹について

西園 寺 泰 フッサールの「本質」について

塩田 里 美 サルトルの実存的精神分析について

清水 紀陽士 『純粹理性批判』における形式の主観性

寺田 俊 郎 カント『第一批判』における自由概念の検討

樋口 善 郎 『精神の現象学』と学との関係をめぐる問題に就いて——緒論に於けるその論究——

松田 克 進 真理と方法に関するスピノザの見解——『知性改善論』の分析

森 秀 樹 『存在と時間』における「開かれた理解」の可能性と解釈学的循環

橋本 康 二 ヒュームの因果論における必然的結合の問題

西洋哲学史

端 紀 子 プラトン『ピレポス』における快樂と知について——善き生活へのイニシアチブ——

高橋 信 道 サルトル存在論の研究——対自の存在回復の

川越 淳 「批判」の構造と問題点
久保 徹 欲望と善——プラトン『ゴルギアス』におけるカリクレス説論駁をめぐって——

中国哲学史

岡本 哲 王充の命論
大井隆 生 伍冲虚真人守陽について

心理学

大島 耕 言語理解における文脈効果
城戸 康 秀 犯罪報道における人名表記
佐久間 文子 いじめの問題について
佐藤 勝 秀 Social Loafing と匿名性

下田 真 治 幼児における問題解釈——系列化課題——
玉村 美保子 ステレオタイプと記憶——社会的態度が文章記憶に及ぼす効果

辻田 幸子 知覚学習と潜在抑制
福元 直子 顔の認知
星野 公彦 説得場面におけるリアクタンス生起とその要因について

松田 八千代 子どもの絵の発達における視覚情報の影響
村上 晴美 長期記憶における忘却と構成——歌の記憶
小柴 慎次 現代学生の心情の流れについて

祐野 隆 治 幾何学的図形の短期記憶における自発的な

Verbalization の有無についての研究

倫理学

青木 邦夫 K・ヤスパースの交わり (Kommunikation)
越智 俊 至 人道主義的倫理の諸問題——E・フロムに則して

古田 裕 清 「Sache」 と存在論——前期ハイデッガーの思考に沿って

美学美術史学

太田 明子 インガルテンに於ける作品論の考察
岡本 一世 モンドリアンの新造形主義の成立について
喜多 千草 中国陶磁史に於ける装飾の問題について
喜多村 明里 ピエロ・デルラ・フランチェスカの絵画空間

西田 兼 クリムトの絵画作品の特徴
春山 宜 紀 能——主題と様式の関係

前田 友 紀 ジョン・ケージにおける《音》と《音楽》
宮本 裕 子 映画における時空表現の特性

三善 知子 美的体験の構造

矢島 洋一 後水尾院と修学院離宮

児玉 庄 司 U・エーコの記号論——その成立過程と正体
早川 浩 十八世紀ドイツ音楽における装飾音について

村上 稔 表現主義論争におけるE・プロッホのモン
タージュ概念

タージュ概念

鈴木明江 肉体芸としての歌舞伎の構造

樋口恵子 ルーカス・クラナッハの裸体表現について

村上幸生 映像の諸問題

社会学

安倍知子 主婦の友人関係の実証的研究

有吉仲人 権威主義的パーソナリティ論研究

一戸康昭 社会的価値の理論的考察

上村隆広 N・ルーマンの社会システム論の構成

大鹿雅人 ワースのアーバニズム理論における異質性の
問題

小川仲慶 贈答行為に関する社会学的研究

梶谷卓司 G・タッチマンの「ニュース・フレーム」の
諸問題

諸問題

金子雅彦 経済的窮乏感についての一考察

小林由香 家庭における性別役割理論の考察

志摩毅 マルクスにおける物象化概念

林秀子 マス・コミュニケーションの効果と影響過程
の分析

大橋浩介 祭礼参加の専門分化の研究

河野憲治 メディア論の一考察——Cultural Studies
の視点

竹内麻子 G・H・ミードの「feeling」概念の考察

山本義英 地域社会の活力についての実証的研究——祇
園祭調査を中心に——

藤原浩 消費行動の差異論的分析

森野久徳 イヴァン・イリイチにおける消費社会論

宗教学

秋富克哉 ハイデッガー『有と時』に於ける現有の有に
ついて

打越寿海 認識と自由リシュタイナーの世界観の小察

橋智照 マックス・ウェーバーの宗教社会学——禁欲
的プロテスタントイズムと他の世界宗教との
比較から

登世岡浩雄 親鸞研究——『教行信証』の思想

西村則昭 『有と時』における不安の現有の自己分析

美濃部仁 フィヒテの理論哲学——一七九四年『全知識
学の基礎』について——

伊藤哲也 ベルクソンの「閉じた魂」について

篠原ルミ子 持つ自我と在る自己——E・フロムの『持つ
ことか 在ることか』について

長谷川新 ニーチェのキリスト教批判

深宣真穂 S・ヴェイユ『神への愛のために学業を善用
することについての省察』について

仏教学

石田智宏 Abhidharmadpa 業品第二節について
栗原尚道 Tatvasamgraha,
Bahirarthapariksa について

山本勝子 十四無紀について

キリスト教学

高坂 満 スウェーデンボルグにおける自由意志について
の考察

宗教学

岩田文昭 リクール哲学の由来と展開——ラウエッソン
『習慣論』から『生きた隠喩』へ
仲原 孝 『有と時』に於ける頽落解釈の問題
石倉順一 ニーチェ哲学における認識論的観点からの根
本概念の解明

仏教学

松田祐子 『Tathāgata』と漢訳『普曜経』、『方广大
莊嚴経』

八 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

修士課程修了論文題目

——昭和六十一年三月——

哲学

白旗 優 後期ヴィトゲンシュタインにおける「証明」
についての形式的考察
浜岡 剛 アリストテレスにおける知性認識の構造
白石裕 已 カントにおけるアプリアリナ対象認識の問題

中国哲学史

宇佐美 文理 欧陽脩の学問と芸術論

心理学

太田 絵里子 暗所視及び薄明視に於る桿体—錐体交互作用
工藤 俊郎 知覚判断基準における記憶の機能
久保 真人 対人認知を規定する次元と自己評価との関係
についての実験的研究
真鍋 かおり 印象の評価の一慣性の維持における contri-
natory strategy について
森 周司 知覚判断における系列効果
米沢 好史 文理解と推論における例示化効果の検討

社会学

管 康弘 「力の体系」としての社会——デュルケーム

哲学研究 第五百五十五号

二二六

宗教社会学における信念と力

美学美術史学 宇恵智子、北村知之、若芝順子、山名伸生

田中紀行 ウェーバーにおける近代的意識構造の問題

棚瀬慈郎 死とシンボルの社会学的考察

十 京都大学文学部哲学科における最近六年間の博士学位受領者

西井涼子 エスニシティ論の理論的考察

美学美術史

(昭和五十七年度—六十三年度はじめ)

笹谷純雄 ブランクーシンの『ボガニー嬢』

昭和五十七年度

佐藤理恵 小袖、近世初期の展開

岡本安晴 (論文博 第一五八号)

並木誠士 大仙院客殿檀那之間襖絵の絵画史的位置

昭和五十八年三月二十三日授与

原口志津子 石山寺縁起絵の研究

「A two-state model of simple reaction time (単純反応時間の状態モデル)」

安田篤生 宗達の大画面絵画について

(本吉良治(主)、平野俊二、中久郎)

九 博士後期課程学修者氏名

—昭和六十一年三月—

昭和五十八年度

哲 学 加藤恵介、安孫子信

高木修 (論文博 第一六〇号)

倫 理 学 平石隆敏、藤野寛

昭和五十九年一月二十三日授与

中国哲学史 林克

「態度構造および態度と行動の關係の研究」

西洋哲学史 安藤正人、倉田隆、貞松司、中畑正志、金山

(本吉良治(主)、平野俊二、中久郎)

西洋哲学史 安藤正人、倉田隆、貞松司、中畑正志、金山

荒牧典俊 (論文博 第一六一号)

弥平

昭和五十九年三月二十三日授与

宗 教 学 門脇健

「南朝前半期における教相判釈の成立について」

仏 教 学 室寺義仁

(梶山雄一(主)、服部正明、笹沙雅章)

心 理 学 唐沢稔、菅原康二

社 会 学 黒田浩一郎、原田隆司、柳川洋一

昭和五十九年度

酒井 潔 (文博 第二〇号)

昭和六十年三月二十三日授与

「世界と自我——ライプニッツ形而上学論攷——」(辻村

公一(主)、藤澤令夫、山田晶)

石沢 要 (論文博 第一六四号)

昭和五十九年五月二十三日授与

「スピノザ研究」(辻村公一(主)、山田晶、酒井修)

長谷川 芳典 (論文博 第一六五号)

昭和六十年一月二十三日授与

「条件抑制手続を用いた食物嗜好条件づけ」

(本吉良治(主)、平野俊二、中久郎)

永田 良 昭 (論文博 第一六六号)

昭和六十年一月二十三日授与

「話し手」の行動からみたコミュニケーションにおける

共方向づけの成立機構について」(本吉良治(主)、平野俊

二、中久郎)

池田 善 昭 (論文博 第一六八号)

昭和六十年一月二十三日授与

「ライプニッツ哲学論攷」(辻村公一(主)、酒井修、山

田晶)

乾 敏 郎 (論文博 第一六九号)

昭和六十年一月二十三日授与

「視覚情報処理の基礎的メカニズムに関する心理学的研

究」(本吉良治(主)、平野俊二、中久郎)

蜂屋 良 彦 (論文博 第一七〇号)

昭和六十年三月二十三日授与

「リーダーシップ行動の実証的研究」(本吉良治(主)、

平野俊二、中久郎)

伊藤 邦 武 (論文博 第一七一号)

昭和六十年三月二十三日授与

「パースのプラグマティズム——可謬主義的知識論の展開

としての意味と探究とに関する理論——」

(辻村公一(主)、酒井修、藤澤令夫)

佐々木 土師二 (論文博 第一七二号)

昭和六十年三月二十三日授与

「消費者購買態度の構造分析」

(本吉良治(主)、平野俊二、中久郎)

阿部 正 雄 (論文博 第一七三号)

昭和六十年三月二十三日授与

「Zen and Western Thought (禅と西洋思想)」

(上田閑照(主)、梶山雄一)

水垣 涉 (論文博 第一七四号)

昭和六十年三月二十三日授与

「宗教的探究の問題——古代キリスト教思想序説——」

(上田閑照(主)、山田晶、藤澤令夫)

昭和六十年度

清水 御代明 (論文博 第一七八号)

哲学研究 第五百五十五号

二三八

昭和六十年十一月二十五日授与

「分類学習における属性選択」

〔平野俊二(主)、中久郎、水津一朗〕

岡本和子(論文博 第一八一号)

昭和六十一年一月二十三日授与

「運動水準の行動と象徴行動の発達の分析——指さし行動

をめぐって——〔平野俊二(主)、中久郎、水津一朗〕

一 郷正道(論文博 第一八五号)

昭和六十一年三月二十四日授与

「中観荘嚴論の研究——シャーンタラクシタの思想——」

〔梶山雄一(主)、服部正明、大地原豊〕

倉沢行洋(論文博 第一八六号)

昭和六十一年三月二十四日授与

「芸道の哲学——宗教と芸の相即——」

〔上田閑照(主)、吉岡健二郎、清水善三〕

昭和六十一年度

桂 紹隆(論文博 第一九三号)

昭和六十二年三月二十三日授与

「インド論理学における遍充概念の生成と発展——チャラ

カ・サンヒターからダルマキールティまで——」

〔梶山雄一(主)、服部正明、上田閑照〕

昭和六十二年度

川崎 幸夫(論文博 第一九六号)

昭和六十二年五月二十三日授与

「エックハルトとゾイゼ——ドイッ神秘主義研究——」

〔上田閑照(主)、酒井修、水垣渉〕

丹治 昭義(論文博 第二〇二号)

昭和六十三年一月二十三日授与

「中観思想研究」〔梶山雄一(主)、服部正明、上田閑

照〕

筒井 清忠(論文博 第二〇三号)

昭和六十三年一月二十三日授与

「昭和期日本の構造」〔中久郎(主)、松尾尊兌、朝尾直

弘〕

頼 富本宏(論文博 第二〇四号)

昭和六十三年三月二十三日授与

「密教仏の研究——文献・美術遺品両面からの考察——」

〔梶山雄一(主)、服部正明、清水善三〕

野本和幸(論文博 第二〇五号)

昭和六十三年三月二十三日授与

「フレイゲの言語哲学」〔酒井修(主)、藤澤令夫、西田

竜雄〕

昭和六十三年度

長谷 正当(論文博 第二〇六号)

昭和六十三年七月二十三日授与

「象徴と想像力」(上田閑照(主)、酒井修、水垣渉)

西洋哲学史

十一 京都大学文学部哲学科講義題目

—昭和六十一年度—

※二回生が履修できる専門科目

[共] 大学院と共通
[院] 大学院のみ

哲学

講義	助教	木曾	好能	※哲学概論	"	助教授	山本	耕平	形而上学の諸問題	[共]
研究	助教	安井	邦夫	現代論理学の諸問題	"	教授	山下	正男	トマスにおける真理論	[共]
"	講師	吉田	謙二	B・ラッセルの構成主義理論の諸問題	"	講師	稲垣	良典	中世の倫理思想(キリスト教学と共通)	[共]
演習I	助教	木曾	好能	Hume: A Treatise of Human Nature	"	教授	酒井	修	哲学的思惟とその契機について	[共]
演習II	助教	木曾	好能	B. Russell: An Inquiry into Meaning and Truth	"	教授	広田	昌義	Recherches pascaliennes (フランス語学フランス文学と共通)	[共]
演習	講師	井上	庄七	Descartes: Les Meditations metaphisiques	"	教授	江原	昭善	人間性の人類学的考察(心理学と共通)	[共]
"	講師	藪木	栄夫	Kant: Kritik der reinen Vernunft	"	部教授	瀬地山	敏	理論経済学の基本問題(社会学と共通)	[共]
講読	助手	美濃	正	※ R. Taylor: Metaphysics, 3rd Edition	"	講師	沢口	昭聿	数理哲学研究	[共]
演習III	助教	木曾	好能	哲学の諸問題	"	講師	藪田	坦	無限と超越(宗教学と共通)	[共]

演習Ⅰ 教授 藤澤 令夫 Platon: Leges V～(西洋古典語

学 西洋古典文学へ共通) [共]

” 教授 岡 道男 Thucydides VIII, 63～(西洋古

典語等 西洋古典文学へ共通)

[共]

演習Ⅱ 教授 藤澤 令夫 Aristoteles: Ethica Nicomach-

ea V, 2～(倫理学①大学院へ

共通)

[共]

演習Ⅰ 助教授 山本 耕平 Thomas Aquinas: Summa

Theol. I-II, q. 4 [共]

演習Ⅱ 助教授 山本 耕平 Thomas Aquinas: Commenta-

ria in Metaphysica Aristotelis

L. I, 1, 5 [共]

演習 講師 宮谷 宣史 Augustinus: De Doctrina Chri-

stiana (キリスト教学へ共通)

[共]

” 講師 中川 純男 Augustinus: De Civitate Dei

Thomas Aquinas: De Unitate

Intellectus Contra Averroistas

[共]

” 教授 酒井 修 G. W. F. Hegel: Wissenschaft

der Logik [共]

” 教養部外国人教師 Eberhard Scheffele

Kants Schriften zur Geschichts-

philosophie [共]

” 講師 木村 彰吾 E. Husserl: Cartesianische

Meditationen [共]

” 講師 竹内 亨 Martin Heidegger: Sein und

Zeit [共]

” 講師 山野 耕治 W. Jaeger: Paideia, die For-

mung des Griechischen Mens-

chen, Bd. I [共]

” 講師 小池 澄夫 Platon: Apologia Socratis (倫

理学へ共通)

” 講師 教授 酒井 修 ※(1) Hegel: Phänomenologie

des Geistes (PhB版, S. 283～S.

314) (2) Kant: Einleitung in

die Kritik der Urteilskraft

(PhB版)

” 講師 助手 小澤 和道 ※Augustinus: Contra Acade-

micos, III

印度哲学史

” 講師 服部 正明 ※インド思想史

” 教授 井狩 弥介

” 教授 服部 正明

” 教授 井狩 弥介

” 教授 服部 正明 古典インドの言語理論 [共]

” 助教授 徳永 宗雄 Bhakti 思想の歴史的展開 [共]

人文研 井狩 弥介 古代インドの世界観(仏教学、
梵語学梵文学と共通) [共]

講師 正信 公章 ヴェーダーンタ研究 [共]

講師 渡瀬 信之 プラフマニズム世界におけるモ
デル社会の形成 [共]

演習 教授 服部 正明 Prasastapada, Padarthadarm-
asaṅgraha [共]

助教 徳永 宗雄 Purāṇetihasasaṅgraha [共]

助教 小林 信彦 サンスクリット演習I(梵語学
梵文学・仏教学と共通) [共]

人文研 赤松 明彦 Dharmakīrti, Pramāṇavārtika
(Svāthānumāna) (仏教学と共
通) [共]

語学 講師 正信 公章 ※サンスクリット文法(各学科
共通サンスクリット語、仏教学、
西南アジア史学、梵語学梵文学
と共通)

研究 教授 清水御代明 ※心理学概論

研究 教授 平野 俊二 学習心理学

研究 教授 坂野 登 人格心理学概論

研究 教授 河合 隼雄 (教育学部と共通)

研究 教授 清水御代明 概念の構造

研究 教授 木下 富雄 社会現象への工学的アプローチ
——いわゆる応用社会心理学の
方法—— [共]

研究 教授 河野 敬雄 数理統計学特論 [共]

研究 教授 江原 昭善 人間性の人類学的考察(西洋哲
学史と共通) [共]

研究 教授 吉川 忠夫 中国における仏教受容の諸問題
(東洋史学と共通) [共]

講師 坂出 祥伸 中国思想における科学と宗教

社会学(比较社会学)

演習 併任 坪内 良博 比较社会学の諸問題

研究 人文研 谷 泰 会話における笑、

東南ア研 教授 前田 成文 東南アジア社会の組織原理

講師 新 陸人 社会システムの比較分析

演習 教授 応地 利明 地域の諸問題(地理学と共通)

宗教学

講義 教授 上田 閑照 ※宗教学概論

研究 教授 上田 閑照 経験と自覚 [共]

研究 助教授 長谷 正当 宗教における自由と自然の問題 [共]

講師 茵田 坦 無限と超越(西洋哲学史と共通)

講師 荒木美智雄 民衆宗教の諸問題 [共]

演習 I 教授 上田 閑照 M. Heidegger: Die onto-theo-
logische Verfassung der Meta-
physik [共]

演習 教授 山本 誠作 A. N. Whitehead: Process and
Reality (論理学と共通) [共]

講師 田中 英三 H. Bergson: Les deux sources
de la morale et de la religion [共]

講師 稲葉 稔 G. W. F. Hegel: Vorlesungen
über die Philosophie der
Religion [共]

講読 助教授 長谷 正当 Simone Weil: L'intuitions pré-
chrétiennes (éd. Fayard) [共]

助手 松丸 寿雄 W. Schulz: Der Gott der neu-
zeitlichen Metaphysik [共]

講義 教授 梶山 雄一 ※インド大乘仏教思想史

教授 梶山 雄一 ラトナキールティの唯識思想

助教授 御牧 克己 チベット仏教の諸学派 [共]

助教授 井狩 弥介 古代インドの他界観(インド哲
学史、梵語学梵文学と共通)

講師 荒牧 典俊 原始仏教成立論 [共]

教授 梶山 雄一 梵語仏典選集 [共]

助教授 小林 信彦 サンスクリット演習 I (梵語学
梵文学、インド哲学史と共通) [共]

助教授 御牧 克己 Kamalāsīta, *Bhāvanābhāraṇa* I [共]

人文研 人手 赤松 明彦
 Dharmakīrti, *Pramāṇavārttika*
 (Svatanūnana) (インド哲
 学史と共通) [共]

講 師 本庄 良文
 Yasubandhu, *Abhidharmakośa-*
bhāṣya [共]

語学 講 師 正信 公章
 ※サンスクリット文法(各学科
 共通)サンスクリット語、インド
 哲学史、梵語学梵文学、西南ア
 シア史学と共通) [共]

講 師 武内 紹人
 ※チベット語初級(各学科共通
 チベット語と共通) [共]

基督教学

講 義 教 授 水垣 涉
 ※キリスト教思想の基礎 I
 四世紀におけるキリスト教教義
 の形成 [共]

講 師 片柳 栄一
 時と永遠——時間論の宗教哲学
 的課題 [共]

講 師 稲垣 良典
 中世の倫理思想(西洋哲学史と
 共通) [共]

研 究 講 師 金子 晴勇
 ルターとドイツ神秘主義 [共]
 講 師 橋本 淳
 キルケゴールの宗教哲学 [共]
 演 習 教 授 水垣 涉
 キリスト教学基礎演習 [共]

教授 水垣 涉
 Origenes: *Commentarii in Io-*
annem [共]

講 師 勝村 弘也
 古典ノブル語文法及び「創世
 記」原典講読 (I. Weingreen:
 A Practical Grammar for Clas-
 sical Hebrew) (西南アシヤ史
 学と共通) [共]

講 師 宮谷 宣史
 Augustinus: *De doctrina chri-*
stiana (西洋哲学史と共通) [共]

講 読 講 師 榊形 公也
 S. Kierkegaard: *Die Krankheit*
zum Tode (übersetzt von L.
 Richter) (Syndikat/EVA Bd.
 24) (倫理学と共通) [共]

十二 「日本学術会議だより」内容紹介

第四号——昭和六十二年二月

「総見出し」「二十一世紀の学術とその動向調査」

「内容項目」公開講演会「二十一世紀の学術」・二国間学術
 交流、昭和六十二年度共同主催国際会議、地域の研究推進
 特別委員会。

第五号——昭和六十二年五月

「総見出し」「地域型研究機関設立(勧告)・学術予算の増額

(要望) 出される」

〔内容項目〕総会報告、「地域型研究機関の設立について(勸告)」、大学等における学術予算の増額について(要望)」、自由討議——二十一世紀へ向けてのエネルギー問題、社会福祉におけるケアワーカー(介護職員)の専門性と資格制度について(意見)。

第六号——昭和六十二年八月

〔総見出し〕「マン・システム・インターフェース(人間と高度技術化社会) 特別委員会設置さる」

〔内容項目〕マン・システム・インターフェース(人間と高度技術化社会) 特別委員会、日本学術会議会員選出制度、我が国の理科教育について(意見)、地区会議活動について。

第七号——昭和六十二年十一月

〔総見出し〕「脳死に関する見解、採択される——医療技術と人間の生命特別委員会報告——」

〔内容項目〕総会報告、日本高齢化社会総合研究センター(仮称)の設立について(勸告)、脳死に関する見解——医療技術と人間の生命特別委員会報告——、自由討議——食糧生産と環境——、第十四期日本学術会議会員選出のための登録学術研究団体の概況、日学双書「高度情報社会の展望と課題」

第八号——昭和六十三年二月

〔総見出し〕「公開講演会開催さる」

〔内容項目〕公開講演会「ハイテクと人類の将来」、公開講演会「情報化と国際化」、二国間学術交流、日本学術会議の国際的活動、生命科学と生命工学特別委員会中間報告——生命科学の研究と教育の推進方策について——、登録学術研究団体等との連絡協議会。

第九号——昭和六十三年五月

〔総見出し〕「第十三期最後の総会終わる——「国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)」を採択——」

〔内容項目〕総会報告、国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)——日米科学技術協力協定の改定に当たって——太陽地球系エネルギー国際協同研究計画(STEP)の実施について(勸告)、「国立地球科学博物館」(仮称)の設立について(勸告)、大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について(要望)、我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解。

〔本号の編輯について〕

本五五五号の編輯および刊行にあたっては、彙報作成の大部分および校正の半ばを編輯担当者(本号は浜野)が担当し、他の一切(企画、執筆依頼、編輯および編成の一切と校正の半ばを含む)は編輯代表者(第五四〇号以降、酒井)が担当したことに、第五四〇号以降の恒例の如くである。